

2022年度  
金沢学院大学  
学生の学修状況・学修成果等の  
検証報告書  
補足資料

## アドミッションポリシーの評価【補】

### 基礎学力確認テストの入試区分別の成績比較

学内共通の基礎学力確認テストの成績について、2科目とも受験した新入生のみを対象として、学部をすべて込みにして入試区分別に分類し、それぞれの区分ごとの成績比較をおこなった。

受験者の入試区分ごとの集計数は、表1に示したとおりである。2科目を受験した入学者の総合計は877名（前年度比+25名）であった。なお、入試区分Cと入試区分Hの区分で入学した受験者はいずれも10名未満であり、平均点や標準偏差を用いた他の入試区分との比較は妥当ではないと考えられる。したがって、以下の分析では、図表には掲載してあるが特に言及していない。

英語・数学・2科目の合計点について、それぞれ入試区分ごとに平均点、標準偏差、最高点・最低点を算出した。また、区分ごとの平均点を個人の得点と見なして、偏差値に換算した。また、大学全体の成績に基づいて四分位数を求め、受験者を上位・中上位・中下位・下位に区分して、それぞれの人数比率を算出した。

表1 入試区分ごとの受験者数一覧

入試区分	人数
入試区分 A	120
入試区分 B	200
入試区分 C	7
入試区分 D	140
入試区分 E	15
入試区分 F	49
入試区分 G	24
入試区分 H	6
入試区分 I	67
入試区分 J	178
入試区分 K	65
合計	877

\*1 KG スカラシップ入試を含む

## ○英語の分析

### 素点に基づく分析

英語は 35 点満点である。入試区分ごとの結果をまとめたものを、表 2 および図 1 に示した。大学の平均点は 18.3 点 ( $SD=6.59$ ) で、前年度比  $-0.8$  点であった。入試区分別に見ると最も平均点が高いのは入試区分 K の 25.1 点 ( $SD=5.18$ ) で、前年度比  $-1.1$  点であった。次いで入試区分 J (23.2 点 22.8 点,  $SD=5.48$ , 前年度比  $+0.4$  点), 入試区分 G (20.0 点,  $SD=4.98$ , 同  $-0.2$  点) と続く。最も平均点が低かったのは入試区分 B の 14.2 点 ( $SD=5.53$ ) で、前年度最低点との比較で  $+0.1$  点であった。同じ入試区分との比較では、 $-0.1$  点である。次いで、入試区分 E の 14.3 点 ( $SD=5.34$ ) で、前年度比  $+0.2$  点であった。

平均点、最高点・最低点、いずれを見ても、入試区分 J と入試区分 K の成績が高く、入試区分 A, 入試区分 B が低い。各入試区分の平均点を偏差値に直すと、50 を超える (平均点を超える) のは数値の大きい順に入試区分 K, 入試区分 J, 入試区分 G, 入試区分 F, 入試区分 D の 5 区分である。一方 45 未満なのは、入試区分 B, 入試区分 E である。

### 成績階層の分析

受験者の成績から 25 パーセンタイル点, 50 パーセンタイル点, 75 パーセンタイル点を算出し、この数値を基に各入試区分の入学者を成績の階層ごとに分類した (表 3)。成績階層は、上位が 35-24 点, 中上位が 23-19 点, 中下位が 18-14 点, 下位が 13-0 点で、すべて前年度と同じである。同点が多数いるため、階層ごとの得点の幅および人数が均等になっていないことに注意されたい。分類した結果を、表 3 に示した。この表は、各入試区分内での上位から下位までの分布を示しているので、横方向の合計が 100% である。

入試区分 J や入試区分 K では、上位から中上位に 80% 以上が入る。その他の区分では、上位から中上位までが過半数を超えるのは入試区分 D, 入試区分 F, 入試区分 G の 3 区分である。下位に 50% 以上が該当する区分はなかったが、入試区分 B と入試区分 E の 2 区分は 40% が下位に入る。

### 評価

以上の傾向から、英語の学力については、入試区分 J および入試区分 K の入学者と、入試区分 A, 入試区分 B, 入試区分 E の入学者の間に、やや大きな差が見られると言える。

表2 英語の入試区分別成績一覧

入試区分	人数	平均	前年度比	SD	最高	最低	偏差値
入試区分 A	126	15.1	-2.4	5.50	31	5	45.20
入試区分 B	200	14.2	-0.1	5.53	30	3	43.92
入試区分 C	7	18.1	1.6	5.46	24	6	49.76
入試区分 D	140	18.8	0.4	6.01	32	4	50.72
入試区分 E	15	14.3	0.2	5.34	23	6	44.06
入試区分 F	49	19.1	1.4	6.25	30	5	51.22
入試区分 G	24	20.0	-0.2	4.98	31	12	52.53
入試区分 H	6	18.7	2.7	4.07	24	14	50.54
入試区分 I	67	15.6	-0.3	4.34	27	6	45.97
入試区分 J	178	23.2	0.4	5.48	35	8	57.30
入試区分 K	65	25.1	-1.2	5.18	35	11	60.14
全体	877	18.3	-0.8	6.69	35	3	

※「前年度比」の欄の赤字は、前年度比で0.5点以上下がった区分。

「最高」「最低」の色つきのセルは、それぞれの得点を記録した区分。

図1 英語の入試区分別平均点

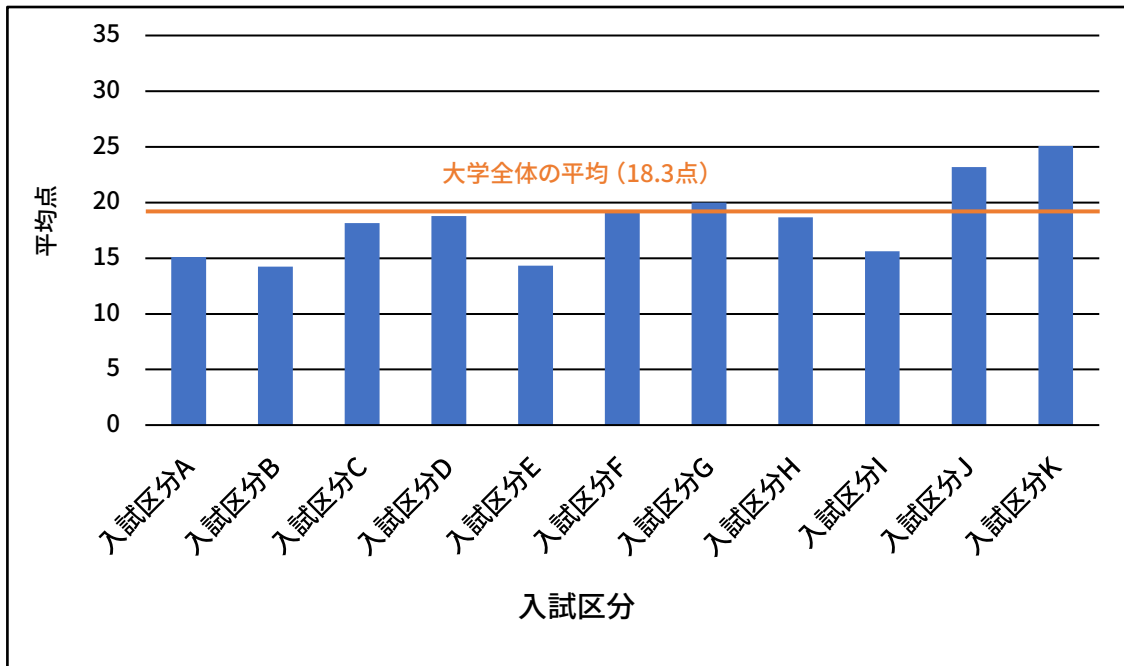


表3 各入試区分における英語の得点の上位～下位の成績階層の比率(%)

入試区分	人数	上位	中上位	中下位	下位	合計
入試区分 A	126	9.5	25.4	30.2	34.9	100.0
入試区分 B	200	8.0	18.0	32.0	42.0	100.0
入試区分 C	7	14.3	57.1	14.3	14.3	100.0
入試区分 D	140	25.0	33.6	25.0	16.4	100.0
入試区分 E	15	6.7	26.7	26.7	40.0	100.0
入試区分 F	49	32.7	22.4	26.5	18.4	100.0
入試区分 G	24	33.3	33.3	25.0	8.3	100.0
入試区分 H	6	33.3	16.7	50.0	0.0	100.0
入試区分 I	67	7.5	25.4	44.8	22.4	100.0
入試区分 J	178	58.4	24.7	14.0	2.8	100.0
入試区分 K	65	69.2	20.0	9.2	1.5	100.0

上位：35-24点，中上位：23-19点，中下位：18-14点，下位：13-0点

※色つきのセルは，その入試区分で最も比率の高い階層である。

(人数が2桁に満たない2つの区分を除く)

## ○数学の分析

### 素点に基づく分析

数学は30点満点である。入試区分ごとの結果をまとめたものを、表4および図2に示した。大学の平均点は22.6点( $SD=4.40$ )で、前年度比 $-0.2$ 点であった。入試区分別に見ると、最も平均点が高いのは入試区分C(25.4点, $SD=3.02$ )だが、この区分に該当するのは7名である。次いで入試区分Kの25.2点( $SD=3.11$ , 前年度比 $-0.6$ 点)、入試区分J(24.6点, $SD=3.90$ , 前年度比 $-0.1$ 点)、入試区分D(23.6点, $SD=2.94$ , 同 $+0.9$ 点)と続く。入試区分J、入試区分Kともに標準偏差が前年度よりもやや大きくなっているが、同じ学力層であると言える。最も平均点が低かったのは入試区分Bの20.0点( $SD=4.96$ )で、前年度最低点との比較で $+0.2$ 点であった。同じ入試区分との比較では、 $-0.1$ 点である。次いで、入試区分Aの21.1点( $SD=3.76$ )で、前年度比 $-1.1$ 点であった。

平均点、最高点・最低点、いずれを見ても、入試区分J、入試区分Kの成績が高く、入試区分A、入試区分Bの成績が低くなっている。各入試区分の平均点を偏差値に直すと、50を超える(平均点を超える)のは数値の大きい順に入試区分K、入試区分J、入試区分D、入試区分G、入試区分Fの5区分である(入試区分Cおよび入試区分Hを除く)。一方45未満なのは、入試区分Bである。全体に標準偏差が英語に比べて小さく、成績のばらつきは英語よりも小さいことがわかる。

数学においては、入試区分間の比較よりも、本編に掲載した学部・学科間の比較の方が、差が顕著に表れていると言える。

### 成績階層の分析

受験者の成績から25パーセンタイル点、50パーセンタイル点、75パーセンタイル点を算出し、この数値を基に各入試区分の入学者を成績の階層ごとに分類した(表5)。成績階層は、上位が30-27点、中上位が26-24点、中下位が23-21点、下位が20-0点である。昨年度に比べ、階層が1点ずつ上にずれている。また、同点が多数いるため、階層ごとの得点の幅および人数が均等になっていないことに注意されたい。分類した結果を、表5に示した。この表は、各入試区分内での上位から下位までの分布を示しているため、横方向の合計が100%である。

入試区分Jと入試区分Kの区分では、上位から中上位に70%以上が入る。その他の区分では、入試区分Dの区分で上位から中上位までの合計が70%を超えている。その他、入試区分F、入試区分G、入試区分Iで上位から中上位までの合計が半数を超えた。一方、入試区分Bと入試区分Eでは、中下位から下位にかけてボリュームゾーンとなっている。入試区分Dと入試区分Iの成績は、前年度に比べて高い方へシフトしている。また、入試区分Iは、英語に比べ成績が高い。

### 評価

以上の傾向から、数学の学力については、入試区分Jと入試区分Kの入学者と、入試区分A、入試区分Bの入学者の間に、やや差があると言える。ただし、英語に比べてその差は小さく、学力の格差はやや小さくなっている。

表4 数学の得点の入試区分別成績一覧

入試区分	人数	平均	前年度比	SD	最高	最低	偏差値
入試区分 A	126	21.1	-1.1	3.76	28	11	46.67
入試区分 B	200	20.0	-0.1	4.96	29	5	44.21
入試区分 C	7	25.4	6.4	3.02	28	19	56.45
入試区分 D	140	23.6	0.9	2.94	29	15	52.28
入試区分 E	15	21.3	1.5	3.96	27	13	47.00
入試区分 F	49	22.8	1.5	4.46	30	11	50.52
入試区分 G	24	23.3	-0.2	4.03	28	13	51.69
入試区分 H	6	22.8	1.8	4.45	26	13	50.56
入試区分 I	67	22.5	0.7	3.84	29	11	49.85
入試区分 J	178	24.6	-0.1	3.90	30	5	54.57
入試区分 K	65	25.2	-0.6	3.11	30	14	55.93
全体	877	22.6	-0.2	4.40	30	5	

※「前年度比」の欄の赤字は、前年度比で0.5点以上下がった区分。

「最高」「最低」の色つきのセルは、それぞれの得点を記録した区分。

図2 数学の入試区分別平均点

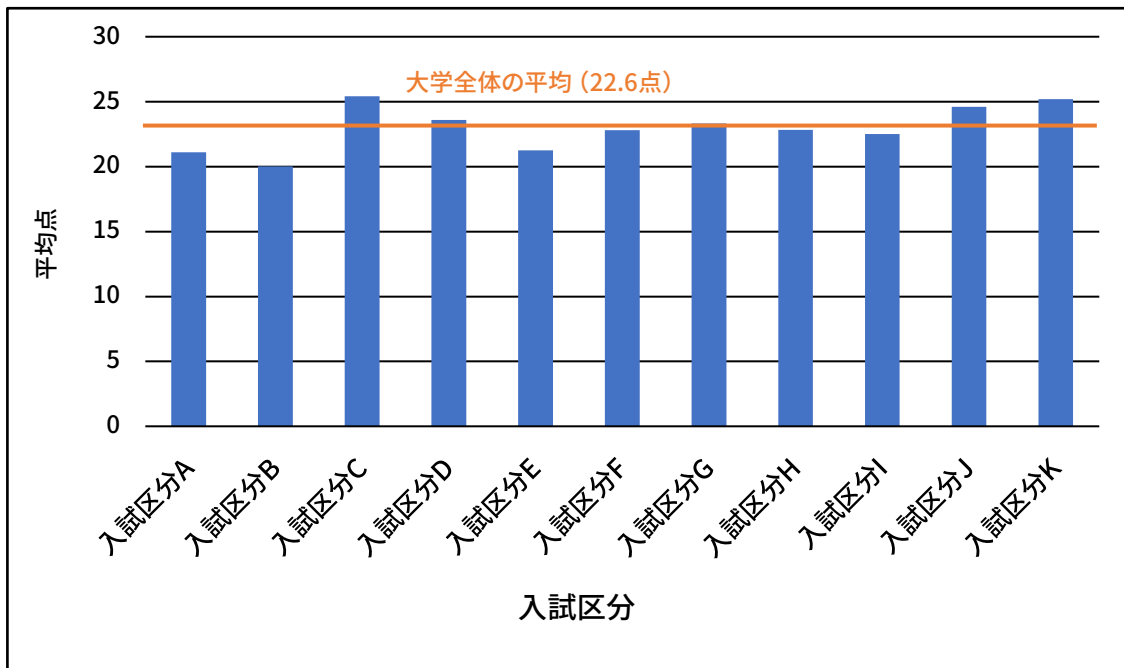


表 5 各入試区分における数学の得点の上位～下位の成績階層の比率(%)

入試区分	人数	上位	中上位	中下位	下位	合計
入試区分 A	126	10.3	32.5	27.0	30.2	100.0
入試区分 B	200	17.5	13.0	25.5	44.0	100.0
入試区分 C	7	71.4	14.3	0.0	14.3	100.0
入試区分 D	140	27.9	45.0	17.9	9.3	100.0
入試区分 E	15	20.0	20.0	33.3	26.7	100.0
入試区分 F	49	34.7	20.4	20.4	24.5	100.0
入試区分 G	24	37.5	20.8	29.2	12.5	100.0
入試区分 H	6	16.7	66.7	0.0	16.7	100.0
入試区分 I	67	23.9	28.4	28.4	19.4	100.0
入試区分 J	178	50.6	27.5	10.7	11.2	100.0
入試区分 K	65	50.8	30.8	12.3	6.2	100.0

上位：30-27点，中上位：26-24点，中下位：23-21点，下位：20-0点

※色つきのセルは，その入試区分で最も比率の高い階層である。

(人数が2桁に満たない2つの区分を除く)



## ○総合得点の分析

### 素点に基づく分析

総合得点は英語と数学の合計で、65点満点である。入試区分ごとの結果をまとめたものを、表6および図3に示した。大学の平均点は40.9点( $SD=9.66$ )で、前年度比 $-0.9$ 点であった。入試区分別に見ると最も平均点が高いのは入試区分Kの50.3点( $SD=6.47$ )で、前年度比 $-1.7$ 点であった。次いで入試区分J(47.8点, $SD=7.52$ , 前年度比 $+0.3$ 点), 入試区分G(43.3点, $SD=7.35$ , 同 $-0.3$ 点)と続く。昨年度もこの3区分は上位に位置したが、入試区分Kは前年度よりも平均点が1点以上下がっている。最も平均点が低かったのは入試区分Bの34.3点( $SD=8.95$ )で、前年度最低点との比較で $+0.3$ 点であった。同じ入試区分との比較では、 $-0.3$ 点である。次いで、入試区分Eの35.6点( $SD=7.29$ )で、前年度比 $+1.7$ 点であった。

平均点、最高点・最低点、いずれを見ても、入試区分Jと入試区分Kの成績が高く、入試区分A、入試区分B、入試区分Eで成績が低くなっている。各入試区分の平均点を偏差値に直すと、5つの区分(入試区分Cおよび入試区分Hを除く)で50を超えるが、入試区分Bと入試区分Eの区分で45を下回っている。

図4は、平均点を満点に対する得点率に換算した数値をグラフ化したものである。得点率は、どの入試区分でも英語が低く、数学が高いため、総合得点がある間に入る形になっている。英語の得点率は5つの区分で50%未満である。一方、数学の得点率が50%に達しない入試区分はなく、最低でも66.8%(入試区分B)に達している。

### 成績階層の分析

受験者の成績から25パーセンタイル点、50パーセンタイル点、75パーセンタイル点を算出し、この数値を基に各入試区分の入学者を成績の階層ごとに分類した(表7)。成績階層は、上位が65-49点、中上位が48-42点、中下位が41-35点、下位が34-0点である。前年度比で、中上位と中下位の境界が1点上にずれている。同点が多数いるため、階層ごとの得点の幅および人数が均等になっていないことに注意されたい。分類した結果を、表7に示した。この表は、各入試区分内での上位から下位までの分布を示しているため、横方向の合計が100%である。

入試区分Jや入試区分Kでは、上位から中上位に80%以上が入る。入試区分Dと入試区分Gで上位から中上位が60%を超える。入試区分A、入試区分B、入試区分E、入試区分Iにおいては、下位に60%以上が該当する。

### 評価

以上の傾向から、総合得点においては数学よりも英語の学力が反映されており、今年度の入学者については、入試区分ごとの学力の差は英語において顕著であると言える。これは前年度の傾向と一致している。

英語、数学、合計のいずれにおいても大学全体の平均点は前年度よりも下がった。その中で、入試区

分Jでは前年度と比べて大きな変化がなく、相対的に上位にシフトした。入試区分D, 入試区分E, 入試区分Fでボリュームゾーンにやや差があり、これは出願の要件と関係している可能性がある。

表6 総合得点の入試区分別成績一覧

入試区分	人数	平均	前年度比	SD	最高	最低	偏差値
入試区分A	126	36.2	-3.5	7.66	57	19	45.15
入試区分B	200	34.3	-0.3	8.95	57	11	43.14
入試区分C	7	43.6	8.1	8.14	51	25	52.77
入試区分D	140	42.4	1.3	7.66	61	23	51.54
入試区分E	15	35.6	1.7	7.29	49	24	44.52
入試区分F	49	41.9	2.9	9.47	58	16	51.08
入試区分G	24	43.3	-0.3	7.35	54	28	52.53
入試区分H	6	41.5	4.5	5.82	49	32	50.63
入試区分I	67	38.1	0.4	6.70	55	23	47.14
入試区分J	178	47.8	0.3	7.52	63	27	57.14
入試区分K	65	50.3	-1.7	6.47	65	34	59.73
全体	877	40.9	-0.9	9.66	65	11	

※「前年度比」の欄の赤字は、前年度比で0.5点以上下がった区分。

「最高」「最低」の色つきのセルは、それぞれの得点を記録した区分。

図3 総合得点の入試区分別平均点

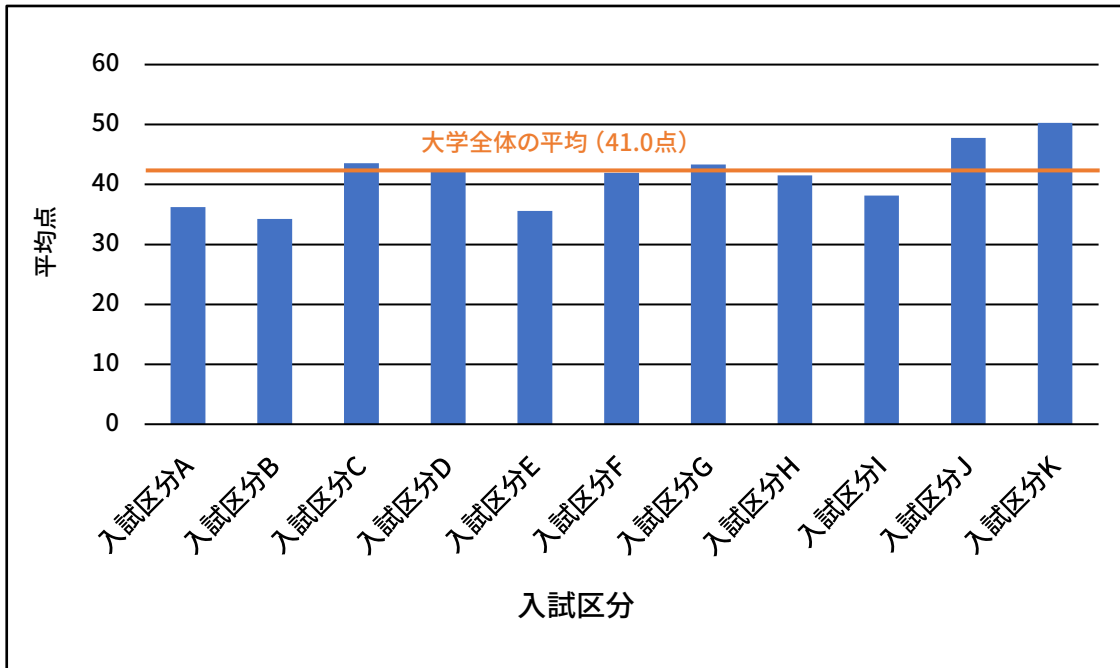


図4 英語・数学・総合得点の得点率

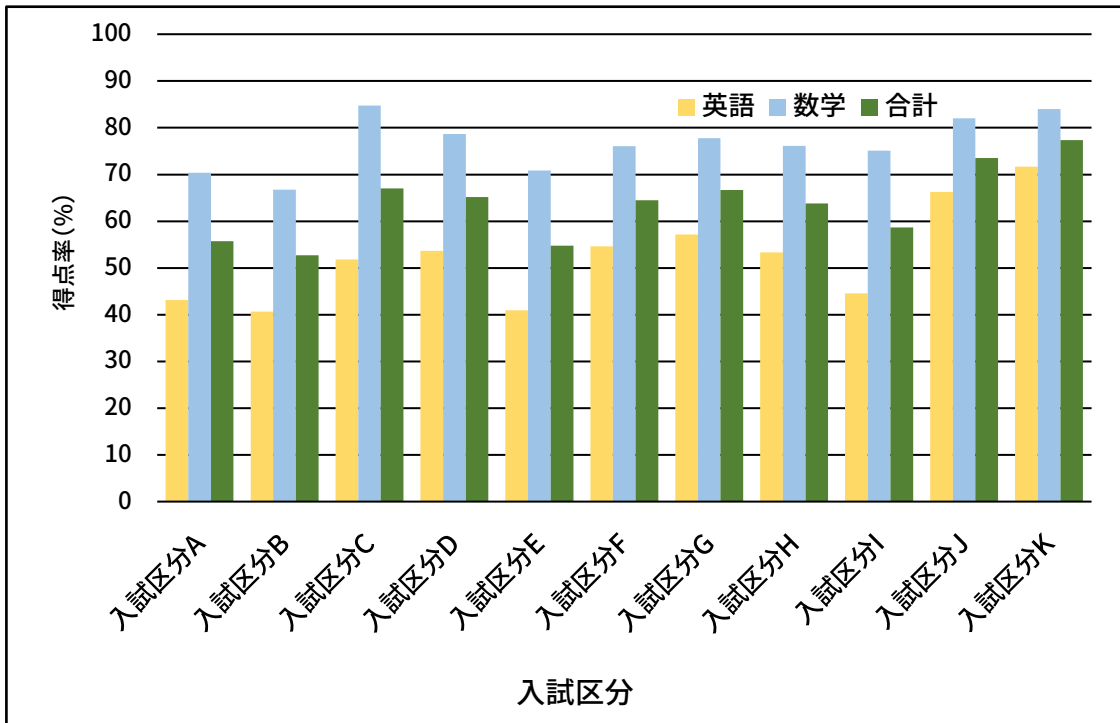


表7 各入試区分における総合得点の上位～下位の成績階層の比率(%)

入試区分	人数	上位	中上位	中下位	下位	合計
入試区分 A	126	7.1	23.0	30.2	39.7	100.0
入試区分 B	200	7.5	17.5	25.0	50.0	100.0
入試区分 C	7	42.9	42.9	0.0	14.3	100.0
入試区分 D	140	24.3	36.4	28.6	10.7	100.0
入試区分 E	15	6.7	26.7	33.3	33.3	100.0
入試区分 F	49	32.7	18.4	30.6	18.4	100.0
入試区分 G	24	33.3	29.2	25.0	12.5	100.0
入試区分 H	6	33.3	16.7	33.3	16.7	100.0
入試区分 I	67	9.0	29.9	28.4	32.8	100.0
入試区分 J	178	53.9	28.1	12.9	5.1	100.0
入試区分 K	65	75.4	16.9	7.7	0.0	100.0

上位：65-49点，中上位：48-42点，中下位：41-35点，下位：34-0点

※色つきのセルは，その入試区分で最も比率の高い階層である。  
(人数が2桁に満たない2つの区分を除く)